

保護者からみた学習支援の意義と課題

—学習支援を利用している保護者の語りから—

○ 新潟県立大学 氏名 小澤 薫 (8150)

小池 由佳 (新潟県立大学・2735)

キーワード：学習支援、低所得世帯、子育て支援

1. 研究目的

低所得家庭に対する学習支援は、子どもにとって学びの機会であり居場所であるのと同時に、保護者にとっては子育て支援である。子育て支援は選択的なサービスという特徴があるため、保護者の理解と協力がなければ子どもが継続的に参加することが難しい側面を持ち合わせている。子どもが継続的に学習支援の場に参加するためには、学習支援の場が保護者にとっても「意味ある場所」として機能することが必要である（小澤・小池 2016）。本研究では学習支援を利用している保護者を対象としたインタビュー調査から、保護者からみた学習支援の意義と課題について分析を行い、保護者の思いの変化と子どものいる低所得世帯を支える体制について検討することを目的としている。

2. 研究の視点および方法

(1) 調査の対象

2015年度にA市における学習支援事業に子どもを登録した保護者である。調査協力者の選定にあたっては、学習支援事業の運営に携わる学習支援員を通して依頼した。協力を打診した4世帯から聞き取り調査の了解を得た。

(2) 調査方法

調査の実施方法は、半構造化面接である。調査期間は、2016年3月から4月。すべての調査は、調査者（本報告者）2名と対象者1名の面接形式で実施した。1世帯あたり約40分間のインタビューを行い、調査の趣旨を説明し同意を得た上で、ICレコーダーによる録音を行った。

(3) 分析方法

聞き取り調査のデータ分析の手順は次の通りである。まず、聞き取り調査によって得られたデータすべてを逐語化し、保護者が子どもを学習支援事業に参加させた要因、利用したことによる保護者の変化、今後の希望・期待に該当する発話データを抜き出し、分析の対象として取り扱った。分析方法は、佐藤（2008）による定性的（質的）コーディングに基づいて行った。

3. 倫理的配慮

本研究は、新潟県立大学倫理委員会の規定に従って手続きを行い、委員会の承認を得て実施した。収集したデータについては統計的处理を行い、結果の公表に関して個人が特定

されることのないよう配慮している。上記のような配慮を行う旨を調査の目的・趣旨とともに事前に説明した。

4. 研究結果

(1) 学習支援事業を利用した要因

保護者は、進学が当たり前の〈いまの社会状況〉のなかで〈経済的制約〉〈自分で教えてきたが教えられなくなる〉、また、保護者自身が学習環境に恵まれなかったという〈自分自身の子ども時代の経験から〉、子どもに学習の機会を提供したいのにできないという【学習の機会を提供できないうしろめたさ】を抱えていた。

(2) 学習支援事業に参加したことによる保護者の変化

ケースワーカーの勧めなどから学習支援の場につながることによって、直接教えてもらえる、静かな場所など〈学習環境の整備〉、子どもが参加することによって〈子どもと離れる時間の確保〉ができていた。あわせて、サポーターとしての大学生によって〈子どものロールモデルとなる人とのかかわり〉、学習支援員は〈子どもを気にかけてくれる人の存在〉となり【社会資源につながることによって得られる安堵】を実感していた。

(3) 今後に向けた保護者としての期待と不安

学習支援事業への子どもの参加を通して、保護者は〈子どもの成長を感じ〉〈子どもの夢の広がり〉に気づくという【子どもを客観的にみられること】につながっている。あわせて高等教育にかかわる費用の確保など現実の家計の状況と子どもの夢の実現に向けた【新たな不安】を実感していた。

5. 考察

社会資源として学習支援の場を利用することは単に教えてもらえるということだけでなく、人とのつながりの場となっている。親族や地域とのつながりが希薄な保護者にとって、子どものことを一緒に考えてくれる、子どもの成長を一緒に喜んでくれる人とのつながりの場となっていた。そこで大きな役割を果たしているのが「学習支援員」の存在であった。

あわせて、保護者が抱える不安に対して、継続的にかかわる支援者と制度的な支援が不可欠である。そこでは子どものいる低所得世帯の支援者として生活保護ケースワーカーも大きな役割を担っている。世帯全体を支援していくためには、保護者との連携を強化し、保護者と一緒に子育てしていく視点が重要である。このような関係づくりに向けた検討については今後の課題としたい。

参考文献

- ・佐藤郁哉 (2008)『質的データ分析法 原理・方法・実践』新曜社
- ・小澤薫・小池由佳 (2016)「低所得世帯の子どもへの学習支援に関する研究 利用する保護者のアンケート調査から」(日本福祉学会第64回秋季大会 口頭発表資料)